論文

中間財のサプライチェーンに組込まれていないミャンマー･カンボジア
～求められるモノカルチャー的な貿易構造からの脱却～

高橋　俊樹　*Toshiki Takahashi*
（一財）国際貿易投資研究所　研究主幹

要約

- *ミャンマーの主な輸出先はアジアで、カンボジアの主な輸出先はアジア以上に先進国が多い。ミャンマーとカンボジアの主な輸入相手はともにアジアである。*
- *ミャンマーの輸出構造は、豊富な天然ガス資源を背景にした素材輸出の割合が4分の3というモノカルチャー的なところに加え、「食料・飲料」や「縫製品・履物」に代表される最終財輸出の割合が16％にとどまるのが特徴である。また、カンボジアは委託加工貿易などによる縫製品・履物等の最終財の輸出割合が9割近くに達しており、モノカルチャー的な輸出構造ではミャンマー以上に強い特性を持つ。*
- *ミャンマーとカンボジアは主に中国・ASEANから中間財を輸入しており、その輸入割合は全輸入額の5割～6割を占める。これに対して、中間財を輸出する割合は7％前後にすぎなく、中間財の東アジア域内相互のサプライチェーン網には組込まれてはいない。*
- *ミャンマーとカンボジアの貿易構造が高付加価値型に進化するには、繊維・履物などの委託加工貿易に見られるようなモノカルチャー的な貿易形態から、多くの品目を取扱う多層的な貿易構造に転換しなければならない。それには多方面からの製造・サービス投資をさらに呼び込む必要があるし、外資の誘致にはインフラと法の整備、規制緩和な*

http://www.iti.or.jp/

どが不可欠である。同時に、川上から川下までの国内産業の裾野を広げ、利益を生む体質を作り上げ、競争力を高めなければならない。

・ *現在のミャンマーにおける素材中心、カンボジアの最終財中心の輸出から、もう少し中間財のシェアを高めた貿易構造に転換するようになれば、ミャンマー・カンボジアの輸出入はさらなる持続的な成長を遂げると思われる。*

はじめに

ミャンマーとカンボジアの経済は好調に推移している。外国からの観光客が増加し、外資の進出が活発化しているためだ。両国とも、好調な経済を背景に輸出入が大きく拡大している。2015 年～2018 年にかけて、両国は既存の FTA における関税を大きく削減する予定である。これを契機に、両国の貿易は一段と伸びていくものと思われる。

本稿においては、なかなか実態がよくわからないミャンマー・カンボジアの貿易構造を同じ業種分類で比較分析し、両国の貿易の現状と課題を浮き彫りにしている。また、それに基づき今後の両国の貿易構造がどのように変化しなければならないのかを展望している。

1．現地政府機関の発表によるミャンマー・カンボジア貿易の現状

ジェトロの 2014 年世界貿易投資報告によれば、2013 年度（2013 年 4 月～2014 年 3 月）におけるミャンマーの政府機関発表の輸出額は（表 1）、112 億ドルの前年度比 24.8%増であった。輸入は 137.6 億ドルの 51.7%増を達成した。ミャンマーの輸出先ではタイ、中国、インド、シンガポール、日本、香港、韓国、マレーシアの順でシェアが高く、その合計は全体の 9 割を超える。輸入では、中国、シンガポール、タイ、日本、韓国、マレーシア、インド、インドネシア、ドイツの順番となっている。輸出入とも中国、ASEAN、日本、韓国のシェアが高く、米欧は低いのが特徴である。

表１　ミャンマーの国別輸出入

（単位：100 万ドル、%）

	2012年度	2013年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額（FOB）	8,977	11,204	100.0	24.8
タイ	4,001	4,306	38.4	7.6
中国	2,238	2,911	26.0	30.1
インド	1,019	1,144	10.2	12.3
シンガポール	291	694	6.2	138.2
日本	406	513	4.6	26.3
香港	13	489	4.4	3,742.1
韓国	281	353	3.1	25.7
マレーシア	98	109	1.0	11.2
インドネシア	32	60	0.5	90.4
英国	27	49	0.4	80.3
その他	572	577	5.1	0.8
輸入総額（CIF）	9,069	13,760	100.0	51.7
中国	2,719	4,105	29.8	51.0
シンガポール	2,535	2,910	21.2	14.8
タイ	697	1,377	10.0	97.6
日本	1,092	1,296	9.4	18.7
韓国	343	1,218	8.9	254.9
マレーシア	361	840	6.1	132.7
インド	302	494	3.6	63.6
インドネシア	195	439	3.2	124.8
ドイツ	145	83	0.6	△42.4
米国	120	80	0.6	△33.6
その他	560	918	6.7	63.9

(資料)ジェトロ 2014 世界貿易投資報告（原典は、ミャンマーの中央統計局）

表２　ミャンマーの品目別輸出入

（単位：100 万ドル、%）

	2012年度	2013年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額（FOB）	8,977	11,204	100.0	24.8
天然ガス	3,666	3,299	29.4	△10.0
翡翠	298	1,012	9.0	239.6
豆類	962	896	8.0	△6.8
縫製品	695	885	7.9	27.2
チーク	359	668	6.0	85.9
コメ	544	460	4.1	△15.4
ゴマ	278	341	3.0	22.4
魚類	442	311	2.8	△29.7
トウモロコシ	200	286	2.6	42.8
堅木	220	232	2.1	5.4
その他	1,312	2,815	25.1	114.6
輸入総額（CIF）	9,069	13,760	100.0	51.7
一般・輸送機械	2,646	4,145	30.1	56.7
石油製品	1,592	2,300	16.7	44.5
卑金属・同製品	1,025	1,543	11.2	50.5
電気機械・器具	489	708	5.1	44.9
食用植物油	304	515	3.7	69.2
プラスチック	351	468	3.4	33.4
合繊織物	309	406	2.9	31.4
医薬品	273	253	1.8	△7.3
肥料	168	231	1.7	37.6
セメント	158	204	1.5	29.7
その他	1,756	2,986	21.7	70.1

(資料)ジェトロ 2014 世界貿易投資報告(原典は、ミャンマーの中央統計局)

ミャンマーの品目別輸出では（表2)、天然ガス、翡翠（ヒスイ)、豆、縫製品、チーク、コメ、ゴマが上位品目となり、輸入では、一般・輸送機械、石油製品、卑金属・同製品、電気機械・器具、食用植物油、プラスチック、合繊織物、医薬品、肥料、の順となっている。

カンボジアの商業省発表の国別輸出額を見てみると（表3)、2013年の1位は米国（21億ドル)、2位は香港（16億ドル)、3位はシンガポール(8億ドル）であった。次いで、英国、独、加、日本、中国、タイとなっており、先進国が上位に並んでいる。輸入額では、1位が中国(30億ドル)、2位が米国（11億ドル)、3位がタイ（11億ドル）であった。日本は10位であった。

品目別では（表4)、2013年のカンボジアにおける61億ドルの輸出の内、縫製品が全体の8割を占める。89億ドルの輸入の内、織物、製靴部材が約6割を占め、次いで石油製品、車両等が続く。カンボジアの国別輸出入額は商業省、品目別輸出入額は経済財政省が作成したもので、それぞれ輸出入額が異なる。

いずれにしても、カンボジアの貿易は、その多くが織物・縫製品・靴に依存しているし、国別ではアジアだけでなく、米国、英国、日本などの先進国との交易が大きいことが見て取れる。

表３　カンボジアの国別輸出入
(2013年、100万ドル、%)

	輸出			輸入		
	国	金額	シェア	国	金額	シェア
1	米国	2,079	28.4	中国	3,004	35.1
2	香港	1,587	21.7	米国	1,119	13.1
3	シンガポール	793	10.8	タイ	1,095	12.8
4	英国	718	9.8	ベトナム	987	11.5
5	ドイツ	615	8.4	香港	668	7.8
6	カナダ	480	6.6	台湾	542	6.3
7	日本	334	4.6	韓国	371	4.3
8	中国	280	3.8	シンガポール	348	4.1
9	タイ	235	3.2	インドネシア	246	2.9
10	スペイン	197	2.7	日本	175	2.0
10か国計		7,318	100.0		8,555	100.0

（資料）カンボジア商業省

表４　カンボジアの品目別輸出入

（単位：100 万ドル、%）

	2012 年	2013 年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額（FOB）	5,132	6,147	100.0	19.8
縫製品	4,510	4,934	80.3	9.4
天然ゴム	162	174	2.8	7.3
木材	29	75	1.2	159.7
魚加工品	4	1	0.0	△72.6
その他	426	962	15.7	125.9
輸入総額（CIF）	7,459	8,880	100.0	19.0
織物、製靴部材など	4,177	5,234	58.9	25.3
石油製品	871	863	9.7	△1.0
車両等	381	432	4.9	13.3
たばこ	162	168	1.9	3.8
二輪車	134	133	1.5	△0.9
その他	1,735	2,051	23.1	18.2

（資料）ジェトロ 2014 世界貿易投資報告（原典は、カンボジア経済財政省関税消費税総局）

２．貿易相手国側から見たミャンマー・カンボジアの貿易動向

(1) ミャンマーの主な輸出先はアジアでカンボジアは先進国

表 1～表 4 までは、ミャンマーとカンボジアの現地政府機関の発表による貿易動向であるが、業種・品目分類は両国ともそれぞれ主要な品目を採用している。このままでは、ミャンマーとカンボジアの貿易を同じ業種分類で比較検討することができない。

そこで、国際貿易投資研究所（ITI）が分類化した 14 の業種分類に沿って、2013 年のミャンマー・カンボジアの貿易相手国から逆推計した両国の貿易動向を作成した。ミャンマーとカンボジアの貿易を相手国側から逆推計したのは、現時点では、電子媒体によるミャンマーとカンボジアの国別品目別の貿易データを入手することができないためである。

また、本稿では 14 の業種分類とともに、素材・中間財・最終財などの需要段階別・用途別の分類でも、ミャンマー及びカンボジアの貿易額を求めた。需要段階別・用途別の分類においても、ミャンマー・カンボジアの貿易は相手国からの逆推計で作成している。

逆推計でミャンマー・カンボジアの貿易を求める時、本稿ではその貿易相手国として、中国、ASEAN4 ヵ国（インドネシア、マレーシア、タイ、ベト

http://www.iti.or.jp/

ナム）及び日本、米国、ドイツの 8 ヵ国を選んだ。ただし、ベトナムに関しては、2013 年のデータがなく、2012 年のデータが最新である。

つまり逆推計された貿易動向においては、「ミャンマーの中国への輸出」は「中国のミャンマーからの輸入」から作成されている。このため、通常の輸出は FOB（本船甲板渡し条件; Free On Board）、輸入は CIF（運賃・保険料込み条件、Cost, Insurance and Freight）であるが、表 5 以降の表では、輸出が CIF、輸入が FOB で表されている。

この他に、現地政府機関と逆推計による輸出入額の合計が一致しない理由として、ミャンマー・カンボジアの輸出入額の逆推計は 8 ヵ国だけを対象にしている、両者の輸出入額を計上する時点の違い、年と年度の違い、統計作成機関の違い、などを挙げることができる。

逆推計による輸出入額は、あくまでもミャンマー・カンボジアの貿易構造の分析を狙ったもので、貿易額の規模を把握しようとするものではない。つまり、シェアや成長率の分析からミャンマーとカンボジアの輸出入構造がどうなっているのかを理解することが主眼となっている。

表５　ミャンマー・カンボジアの 8 ヵ国への輸出額
（2013 年（ベトナムは 2012 年）、100 万ドル）

		総額		
		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側	China	361	2,810	1,949,300
	Indonesia	18	73	186,629
	Malaysia	194	199	206,119
	Thailand	355	4,024	249,831
	Vietnam（2012）	543	109	113,780
	4カ国計	928	7,105	2,591,878
	5カ国計	1,470	7,215	2,705,659
	Japan	582	757	832,628
	U.S.A.	2,772	30	2,268,321
	Germany	836	73	1,189,110
	8カ国計	5,661	8,075	6,995,718

（注）4 ヵ国計は中国、インドネシア、マレーシア、タイを集計したもの。5 ヵ国計はこれにベトナム、8 ヵ国計は日米独を加えたもの（以下の表 6～表 8、表 13～表 18 も同様）。
（資料）Global Trade Atlas（GTA）GTI より作成（以下の表同様）

http://www.iti.or.jp/

表 5 のように、2013 年の逆推計によるミャンマーの 8 ヵ国への輸出額は 81 億ドルであり、ミャンマーの現地政府機関が発表した 112 億ドルよりも少ない。逆推計の輸出額は CIF 価格ではあるが、8 ヵ国分だけであるため、現地政府機関の輸出額よりも少ないのは整合性があると思われる。

逆推計による輸入額は 138 億ドルであるが（表 7）、これは現地政府機関と同額であった。本来ならば、逆推計による輸入額は FOB 価格であるし、8 ヵ国分しかないわけであるから現地政府機関の輸入額よりも低いはずである。しかし、ミャンマーのボーダートレード（国境貿易）の影響のため、中国やタイでは輸出額が統計に計上されている（逆推計の場合）にもかかわらず、ミャンマーの国境では輸入額が統計から漏れてしまい（現地政府機関の場合）、結果として逆推計と現地政府機関の輸入額は同額になったということが考えられる。

カンボジアの逆推計による輸出額は 57 億ドルで、現地政府機関の 61 億ドルよりも少ない。輸入額は 116 億ドルで、現地政府機関の 89 億ドルよりも高かった。カンボジアの輸入額における逆推計と現地政府機関との 27 億ドルの格差（116 億ドル－89 億ドル）は、ミャンマーと同様に、カンボジアとタイ・ベトナムとの国境貿易の影響があると考えられる。

逆推計によるミャンマーの 8 ヵ国への輸出では（表 6）、タイ向けのシェアがトップで 5 割、次いで中国向けが 35%、日本向けの 9%となる。カンボジアの輸出では、米国向けのシェアが 49%、ドイツ向けが 15%、日本向けが 10%であった。逆推計による 8 ヵ国への輸出では、ミャンマーの輸出先はアジアが主体で、カンボジアの輸出先は先進国が主体である。

逆推計によるミャンマーの 8 ヵ国からの輸入では（表 8）、中国からのシェアがトップで 53%、次いでタイからが 27%、日本からが 8%となる。カンボジアの輸入では、タイからのシェアが 36%、中国からが 29%、ベトナム（2012 年実績）からが 25%であった。8 ヵ国からのミャンマーとカンボジアの輸入はともにアジアからの輸入が主体である。ミャンマー

http://www.iti.or.jp/

の輸入で中国とタイ、カンボジアの輸入でタイとベトナムのシェアが高いのは、両国とも国境貿易が活発であることを物語っている。

表６　ミャンマー・カンボジアの８ヵ国への輸出構成比
（2013 年（ベトナムは 2012 年）、%）

		総額		
		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側	China	6.4	34.8	27.9
	Indonesia	0.3	0.9	2.7
	Malaysia	3.4	2.5	2.9
	Thailand	6.3	49.8	3.6
	Vietnam（2012）	9.6	1.4	1.6
	4カ国計	16.4	88.0	37.0
	5カ国計	26.0	89.3	38.7
	Japan	10.3	9.4	11.9
	U.S.A.	49.0	0.4	32.4
	Germany	14.8	0.9	17.0
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

表７　ミャンマー・カンボジアの８ヵ国からの輸入額
（2013 年（ベトナムは 2012 年）、100 万ドル）

		総額		
		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側	China	3,411	7,349	2,210,662
	Indonesia	312	556	182,552
	Malaysia	235	713	228,395
	Thailand	4,187	3,731	224,956
	Vietnam（2012）	2,930	118	114,529
	4カ国計	8,146	12,350	2,846,565
	5カ国計	11,076	12,468	2,961,094
	Japan	210	1,056	714,866
	U.S.A.	241	146	1,579,593
	Germany	74	168	1,452,985
	8カ国計	11,601	13,838	6,708,538

表８　ミャンマー・カンボジアの８ヵ国からの輸入構成比
（2013 年（ベトナムは 2012 年）、%）

		総額		
		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側	China	29.4	53.1	33.0
	Indonesia	2.7	4.0	2.7
	Malaysia	2.0	5.2	3.4
	Thailand	36.1	27.0	3.4
	Vietnam(2012)	25.3	0.9	1.7
	4カ国計	70.2	89.3	42.4
	5カ国計	95.5	90.1	44.1
	Japan	1.8	7.6	10.7
	U.S.A.	2.1	1.1	23.5
	Germany	0.6	1.2	21.7
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

（2）ミャンマーの輸出は鉱物性燃料、カンボジアは繊維製品・履物

2013 年のミャンマーのベトナムを除く 7 カ国への業種別輸出では（表 9)、天然ガスを含む「鉱物性燃料」が半分以上のシェアを占め、次いで翡翠（ひすい）が含まれる「窯業・貴金属・鉄鋼・アルミ」16%、「木材・パルプ」が 10%、コメ、豆類、ゴマ、魚類などの「農水産品」が 8%のシェアを占めた。

ミャンマーの「鉱物性燃料」の輸出においては、その 86%がタイ向けであり、14%が中国向けであった。また、実質的には翡翠である「窯業・貴金属・鉄鋼・アルミ」の輸出では、中国向けが 95%を占めた。「木材」は主に中国、「農水産品」は中国、タイ、日本に輸出されている。

ミャンマーの業種別輸入では、「輸送用機械・部品」、「窯業・貴金属・鉄鋼・アルミ」、「機械類・部品」、「繊維製品・履物」らがいずれも 10%を超えるシェアを占めた。ミャンマーの「輸送用機械・部品」の輸入では、中国の占めるシェアは半分、日本は 36%、タイは 10%であった。「機械類・部品」では中国からが 6 割、タイからが 23%、「繊維・履物」では、中国からが 76%、タイからが 19%、日本からが 4%であった。

http://www.iti.or.jp/

表９　ミャンマーの７か国（ベトナムを除く）との業種別輸出入動向（2013 年、100 万ドル、%）

		Myanmar							
		輸出側				輸入側			
		2000	2013	2013 シェア(%)	2000/2013 平均成長率	2000	2013	2013 シェア(%)	2000/2013 平均成長率
7カ国計	総額	1,140	7,966	100.0	16.1	1,547	13,720	100.0	18.3
	農業水産品	196	601	7.5	9.0	122	731	5.3	14.7
	食料品・アルコール	8	19	0.2	7.4	72	924	6.7	21.6
	鉱物性燃料	130	4,350	54.6	31.0	226	1,160	8.5	13.4
	化学工業品	0	8	0.1	25.0	144	759	5.5	13.6
	プラスチック・ゴム製品	11	196	2.5	24.6	92	534	3.9	14.5
	皮革・毛皮・ハンドバッグ等	11	1	0.0	−15.5	1	37	0.3	32.1
	木材・パルプ	197	757	9.5	10.9	27	177	1.3	15.6
	繊維製品・履物	494	712	8.9	2.8	196	1,483	10.8	16.8
	窯業・貴金属・鉄鋼・アルミニウム製品	63	1,260	15.8	25.9	161	2,138	15.6	22.0
	機械類・部品	2	1	0.0	−4.7	238	1,644	12.0	16.0
	電気機器・部品	12	28	0.4	6.5	109	1,432	10.4	21.9
	輸送用機械・部品	0	1	0.0	28.5	112	2,231	16.3	25.8
	光学機器・楽器	0	24	0.3	35.0	18	185	1.4	19.7
	雑製品	8	5	0.1	−4.3	19	252	1.8	21.9

表 10　カンボジアの７か国（ベトナムを除く）との業種別輸出入動向（2013 年、100 万ドル、%）

		Cambodia							
		輸出側				輸入側			
		2000	2013	2013 シェア(%)	2000/2013 平均成長率	2000	2013	2013 シェア(%)	2000/2013 平均成長率
7カ国計	総額	1,064	5,118	100.0	12.8	724	8,671	100.0	21.0
	農業水産品	10	217	4.2	26.5	32	246	2.8	17.0
	食料品・アルコール	0	45	0.9	52.1	84	1,155	13.3	22.4
	鉱物性燃料	0	1	0.0	17.2	121	1,085	12.5	18.4
	化学工業品	0	8	0.2	38.7	49	417	4.8	18.0
	プラスチック・ゴム製品	19	144	2.8	16.9	24	354	4.1	23.0
	皮革・毛皮・ハンドバッグ等	3	24	0.5	16.2	1	41	0.5	33.8
	木材・パルプ	58	107	2.1	4.8	17	112	1.3	15.8
	繊維製品・履物	963	4,054	79.2	11.7	159	2,102	24.2	22.0
	窯業・貴金属・鉄鋼・アルミニウム製品	4	52	1.0	21.3	70	722	8.3	19.7
	機械類・部品	0	8	0.2	23.9	37	774	8.9	26.3
	電気機器・部品	1	179	3.5	50.3	39	569	6.6	22.8
	輸送用機械・部品	0	189	3.7	111.5	67	827	9.5	21.4
	光学機器・楽器	0	54	1.1	63.3	6	133	1.5	27.6
	雑製品	3	30	0.6	18.9	12	122	1.4	19.9

2013 年のカンボジアのベトナムを除く 7 カ国への業種別の輸出では（表 10）、「繊維製品・履物」が全体の 79%を占め、圧倒的な存在感を示した。次いで「農水産品」、「輸送機械・同部品」、「電気機器・部品」のシェアが高かったが、いずれも 5%以下の割合であった。

カンボジアの「繊維製品・履物」の輸出では、米国向けが 66%を占め、ドイツ向けが 16%、日本向けが 13%であった。カンボジアの「農水産品」の輸出では、ベトナム向けが 53%の割合で、タイとマレーシア向けが 10%台のシェアとなる。カンボジアの「輸送機械・同部品」の輸出では、ドイツ向けが 86%、米国向けが 10%のシェアであった。

カンボジアの業種別輸入では、やはり「繊維製品・履物」が 24%で最もシェアが高く、「食料品・アルコール」、「鉱物性燃料」が 10%台でこれに続く。カンボジアの「繊維製品・履物」の輸入では、中国からのシェアが 8 割と最も高い。カンボジアの「食用品・アルコール」の輸入相手先としては、タイからが 58%と最も大きく、次いでベトナムからが 21%、インドネシアからが 16%と続く。「鉱物性燃料」の輸入では、タイからが 53%、ベトナムからが 46%の割合を占める。

３．ミャンマー・カンボジアの需要段階別・用途別の貿易と特徴

（1）サプライチェーンを築いていないミャンマー・カンボジアの中間財輸出

これまでのミャンマー・カンボジアの輸出入構造の分析は、「農水産品」や「輸送機械・部品」などの 14 の業種別の分類で行った。東アジアの貿易構造をより分析的に探るには、こうした業種別の分類だけでなく、素材、中間財、最終財などの需要段階別・用途別の分類で行うことも有効である。

例えば、東アジア域内においては、ASEAN は互いに中間財を中心とした貿易取引構造を形成している。つまり、互いに部品や加工品を調達しながら最終製品を組み立てているのである。中国と ASEAN との間では、中国は ASEAN から素材・中間財を輸入し、中間財・最終財を輸出する

http://www.iti.or.jp/

という貿易構造を形成している。

こうした、東アジア域内でのサプライチェーンにおいて、ミャンマーとカンボジアの役割はどうなっているかが、興味のあるところである。そこで、表 11 以降の表のように、ミャンマーとカンボジアの需要段階別・用途別の輸出入を、国連の BEC（Broad Economic Category）分類に基づき、ベトナムを除く 7 か国（中国、インドネシア、マレーシア、タイ、日本、米国、ドイツ）との逆推計により計算した。

ミャンマーのベトナムを除く 7 カ国への輸出においては、表 11 のように、素材が 76%を占め圧倒的なシェアを示した。素材の中でも天然ガスを含む燃料・潤滑剤（原料）の割合は 48%であった。中間財のシェアは 8%にすぎなく、最終財も 16%にとどまった。最終財のほとんどは消費財であり、中でも縫製品・履物を含む半耐久消費財の割合は 9%であった。

これに対して、カンボジアの輸出における素材の割合は 5%であった。中間財の輸出も 6%にすぎなく、ミャンマー同様に中国や ASEAN 向け輸出で中間財（部品・加工品）のサプライチェーンを築いている数字とはならなかった。一方、最終財の輸出割合は 88%にも達しており、そのほとんどは消費財で占められている。縫製品・履物などから成る半耐久消費財と非耐久消費財のシェアは 8 割にも達するほどだ。

つまり、カンボジアの輸出構造は、最終製品である縫製品・履物の委託加工を中心とした貿易でそのほとんどを説明できるということである。業種別の分類でも、こうしたことは把握できるのであるが、素材、中間財、最終財という需要段階別・用途別の分類で比較してみると、より貿易構造の特徴が浮き彫りになる。

ミャンマーの輸出構造は、豊富な資源を背景にした素材輸出というモノカルチャー的なところに加え、「食料・飲料」や「縫製品・履物」に代表される最終財輸出の割合がやや高いのが特徴である。また、カンボジアは縫製品・履物という最終財のモノカルチャー的な輸出構造では、ミャンマー以上に強い特性を持つ。

表 11　ミャンマー・カンボジアの 7 か国（ベトナムを除く）への財別輸出構成比
（2013 年、BEC 分類、%）

		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側 7カ国計	総額	100.0	100.0	100.0
	素材	5.4	76.1	18.9
	食料・飲料（原料、産業用）	0.3	2.0	1.3
	産業用資材（原料）	5.1	26.1	5.2
	燃料・潤滑剤（原料）	–	48.0	12.5
	中間財	6.4	7.7	44.3
	加工品	2.7	7.6	26.2
	食料・飲料（加工品、産業用）	0.3	0.0	0.6
	産業用資材（加工品）	2.4	6.4	20.3
	燃料・潤滑剤（加工品）	0.0	1.2	5.2
	部品	3.7	0.1	18.1
	資本財部品（輸送機器用除く）	2.3	0.1	12.9
	輸送機器用部品	1.4	0.0	5.2
	最終財	88.1	16.2	33.4
	資本財	0.9	0.4	15.7
	資本財（輸送機器除く）	0.9	0.4	14.0
	産業用輸送機器	0.0	0.0	1.7
	消費財	87.2	16.0	18.2
	食料・飲料（原料、家庭用）	1.5	4.5	1.1
	食料・飲料（加工品、家庭用）	2.1	0.8	2.5
	乗用車	0.0	0.0	3.7
	その他の非産業用輸送機器	3.6	0.0	0.2
	耐久消費財	0.1	1.8	2.7
	半耐久消費財	66.8	8.8	4.8
	非耐久消費財	13.3	0.1	3.3
	BEC合計	99.9	100.0	96.6

（注 1）輸入側は、中国、インドネシア、マレーシア、タイ、日本、米国、ドイツの 7 カ国
（注 2）下欄の BEC 合計と総額との違いは、貿易のデータを国連 BEC 分類に変換した時、財別の重複や分類化できない等の理由で発生する（以下、BEC 分類の表、同様）

（2）中間財の主な輸入先は中国・ASEAN

ミャンマーのベトナムを除く 7 カ国からの輸入においては（表 12）、素材の割合が 4%、中間財が 49%、最終財が 46%であった。中間財輸入のほとんどは産業用資材を中心とした加工品の 41%であった。部品はわずかの 8%にすぎない。最終財の輸入の内、資本財は 24%、消費財は 22%を占め、同じような割合であった。

カンボジアの輸入では、素材の割合は 1%にすぎなく、中間財は 61%、最終財は 38%であった。ミャンマーと同様に、カンボジアでも中間財における加工品の比重が高く 51%であった。部品は 10%であった。最終財の輸入では、消費財の割合が高いが、これは食料・飲料（加工品・家

http://www.iti.or.jp/

庭用）のシェアが 11%にも達していることが原因である。

ミャンマーとカンボジアの中間財の輸入割合がそれぞれ 5 割と 6 割ということで、他の ASEAN 諸国と比較するとやや低いものの、それほど大きな差はない。ミャンマー・カンボジアは中国や他の ASEAN と同様に、中国・ASEAN 域内から中間財を輸入する割合が高く、中間財の輸入では他の ASEAN と大きな違いはない。

大きく異なるのは素材の輸入割合である。中国や ASEAN 主要国の素材の輸入割合は 10%～20%に達している。ミャンマーとカンボジアの素材の輸入シェアはそれぞれ 1%と 4%であり、両国の素材の輸入構造は中国や ASEAN 主要国とは大きく違っている。

ASEAN 主要国は、FTA を活用し域内で素材（産業用資材等）や中間財（加工品・部品）を調達し、これらを加工し再び中間財として中国や他の ASEAN に輸出するという相互調達構造を形成している。これに対して、ミャンマーとカンボジアは、繊維・履物などにおいては中国や他の ASEAN から加工品などの中間財を輸入し、経済特区等で委託による加工・組み立てを行い、最終製品として米国、EU、日本などに輸出をする構造となっている。

ミャンマーとカンボジアは中間財の輸入において、中国・ASEAN 域内から調達しているものの、中間財として輸出する割合はかなり低く、中間財の域内相互のサプライチェーン網には組込まれてはいない。ASEAN 向けの輸出では、関税が免除されている経済特区の利用は進んでいるが、域内調達で FTA を利用した関税削減を積極的に行う段階にはまだ至っていないということだ。

委託加工貿易では、持ち込んだ材料は経済特区などで組み立てられ、製品は国内で販売されることなくそのまま外国に輸出される。こうした貿易形態においては、リスクは低いが、製造側が自ら設計・デザインをしたり素材を輸入するわけではないので、利益率も低い。また、国内の川上や川中の分野への投資が手控えられるので、産業の競争力が相対的に低くなる。

したがって、高付加価値型のミャ

ンマー・カンボジアの貿易構造を実現するには、川上から川下までの一貫生産ができる産業の裾野の拡大が求められる。そうすれば、さらなるミャンマー・カンボジアへの製造業投資に結びつき、地場企業への調達や技術の移転が進展すると考えられる。

すなわち、ミャンマーとカンボジアがより高付加価値な貿易構造を達成するためには、委託加工貿易に見られるモノカルチャー的な貿易形態から、産業の裾野が広く多くの品目を取引する多層的な貿易構造に転換しなければならない。それには多くの分野から成る製造・サービス投資をさらに呼び込む必要があるし、外資の誘致にはインフラと法の整備、規制緩和などが不可欠である。

表 12　ミャンマー・カンボジアの 7 か国（ベトナムを除く）からの財別輸入構成比
（2013 年、BEC 分類、%）

		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側 7カ国計	総額	100.0	100.0	100.0
	素材	1.1	4.4	4.0
	食料・飲料（原料、産業用）	0.2	0.1	0.7
	産業用資材（原料）	0.6	4.3	2.0
	燃料・潤滑剤（原料）	0.2	0.0	1.2
	中間財	60.5	48.6	48.1
	加工品	50.9	40.7	28.5
	食料・飲料（加工品、産業用）	1.3	4.5	0.9
	産業用資材（加工品）	39.4	29.7	23.7
	燃料・潤滑剤（加工品）	10.2	6.5	3.9
	部品	9.6	7.8	19.6
	資本財部品（輸送機器用除く）	3.8	4.1	13.5
	輸送機器用部品	5.8	3.7	6.0
	最終財	38.4	46.4	44.9
	資本財	14.2	24.5	22.3
	資本財（輸送機器除く）	11.2	18.7	19.5
	産業用輸送機器	3.0	5.7	2.8
	消費財	24.3	22.1	23.2
	食料・飲料（原料、家庭用）	0.5	0.3	0.8
	食料・飲料（加工品、家庭用）	10.5	6.3	2.5
	乗用車	2.3	3.7	4.7
	その他の非産業用輸送機器	0.5	3.0	0.4
	耐久消費財	0.9	1.9	4.1
	半耐久消費財	2.9	3.8	7.0
	非耐久消費財	6.6	3.0	3.8
	BEC合計	100.0	99.4	96.9

http://www.iti.or.jp/

（3）ミャンマーの最終財輸出の半分以上は日本向け

表 13～表 15 は、ミャンマー・カンボジアの国別の需要段階別・用途別（素材・中間財・最終財）の輸出割合を計算したものである。ミャンマーの素材輸出の 97%、中間財輸出の 86%はタイと中国で占められる。また、ミャンマーの最終財輸出では、日本向けが 53%と半分以上を占め、次いで中国向けが 21%、マレーシア・タイ向けがともに 7%であった。

ミャンマーの日本向け輸出においては、最終財の割合が 91%となり、その中で半耐久消費財が 78%、食料・飲料（原料・家庭用）が 12%、食料・飲料（加工品、家庭用）が 2%であった。すなわち、ミャンマーの対日輸出主要品目は、ワイシャツ・ジャケット・コートなどの衣類、履物、魚介類ということになる。

カンボジアの素材輸出では、ベトナム向けが 41%、中国向けが 28%の割合を占めた。中間財の輸出ではタイ向けの割合が多く 45%、次にベトナムが 15%を占めた。カンボジアの最終財の輸出先では、米国向けの割合が 57%、ドイツ向けが 18%、日本向けが 11%であった。これらの国への最終財輸出のほとんどが半耐久消費財、非耐久消費財に分類されるが、その中身は繊維製品・履物である。

表 13　ミャンマー・カンボジアの素材の国別輸出構成比（2013 年、%）

		BEC_素材		
		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側	China	28.1	33.5	40.7
	Indonesia	1.4	0.0	1.9
	Malaysia	13.9	1.3	1.4
	Thailand	13.4	63.1	3.8
	Vietnam（2012）	40.8	1.3	0.6
	4カ国計	56.8	98.0	47.8
	5カ国計	97.6	99.3	48.3
	Japan	1.5	0.6	17.6
	U.S.A.	0.8	0.0	24.4
	Germany	0.1	0.1	9.7
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

表 14　ミャンマー・カンボジアの中間財の国別輸出構成比
（2013 年、%）

		BEC_中間財		
		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側	China	10.1	76.0	29.5
	Indonesia	0.4	2.3	3.8
	Malaysia	5.9	4.1	4.3
	Thailand	45.2	9.9	4.5
	Vietnam（2012）	14.6	2.1	2.6
	4カ国計	61.6	92.3	42.1
	5カ国計	76.2	94.4	44.7
	Japan	11.0	4.3	10.6
	U.S.A.	12.0	0.6	27.4
	Germany	0.9	0.7	17.3
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

表 15　ミャンマー・カンボジアの最終財の国別輸出構成比
（2013 年、%）

		BEC_最終財		
		輸出側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸入側	China	4.0	20.9	17.3
	Indonesia	0.2	4.3	1.8
	Malaysia	2.2	7.0	2.3
	Thailand	2.5	6.6	2.8
	Vietnam（2012）	5.1	1.2	1.1
	4カ国計	9.0	38.8	24.2
	5カ国計	14.0	40.0	25.3
	Japan	11.2	53.1	11.5
	U.S.A.	57.2	2.0	45.0
	Germany	17.5	4.9	18.3
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

（4）ミャンマーの日本からの輸入の多くは中古車などの輸送機器・部品

表 16～表 18 は、ミャンマー・カンボジアにおける国別の素材・中間財・最終財の輸入割合を計算したものである。ミャンマーの中間財輸入の 50%は中国、30%はタイからもたらされる。また、カンボジアの主要な中間財の輸入相手国は中国、タイ、ベトナムであり、それぞれ 30%強のシェアを占める。

ミャンマーの最終財輸入では、中国からの割合が 53%、タイからが 26%、日本からが 14%であった。カンボジアの最終財輸入では、タイからの割合が 42%、中国からが 26%、ベトナムからが 15%であった。

ミャンマーの日本からの輸入では、輸送機器・部品の割合が 75%にも達しており、中身は中古車やその部品である。中国からの最終財の輸入では資本財（輸送機器を除く）の割合が 30%に達している。タイからの最終財輸入では食料・飲料（加工品、家庭用）の割合が 19%と高かった。ミャンマーのスーパーやコンビニでは、タイ製の飲料やお菓子を良く見かけるが、それが輸入実績にも反映されている。

カンボジアの中国からの最終財の輸入では、資本財の割合が高く 20%であった。カンボジアのタイとベトナムからの最終財の輸入割合では、ミャンマー同様に食料・飲料（加工品、家庭用）の割合が高く、それぞれ 20%と 8%を占めた。

また、ミャンマーとカンボジアの 7 カ国（ベトナムを除く）との輸出入における 2000 年～2013 年までの年平均成長率は 10%～20%に達しており、2000 年以降の貿易の伸びが非常に高かったことが窺える。特に、ミャンマーの素材の輸出の年平均成長率は 25%であるし、最終財の輸入の成長率は乗用車や産業用輸送機器の高い伸びを反映し 21%にも達している。

また、カンボジアにおける 2000 年～2013 年までの素材の輸出の年平均成長率は 21%と高い伸びであった。さらに、カンボジアの輸入では、中間財、最終財とも 20%を超える高い年平均成長率を示している。

このミャンマーとカンボジアの 2000 年以降の輸出入の年平均成長率の高さは、両国の力強い経済発展

http://www.iti.or.jp/

をそのまま反映している。ミャンマーとカンボジアの 2000 年～2013 年までの輸出入の年平均成長率は、他の ASEAN を上回っている。

表 16　ミャンマー・カンボジアの素材の国別輸入構成比
（2013 年、%）

		BEC_素材		
		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側	China	9.2	92.7	5.8
	Indonesia	22.6	0.3	20.6
	Malaysia	5.5	0.8	5.9
	Thailand	25.8	4.7	4.4
	Vietnam（2012）	15.8	0.1	6.2
	4カ国計	63.1	98.5	36.8
	5カ国計	79.0	98.6	43.0
	Japan	9.7	0.1	3.3
	U.S.A.	10.1	1.2	43.8
	Germany	1.2	0.1	9.8
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

表 17　ミャンマー・カンボジアの中間財の国別輸入構成比
（2013 年、%）

		BEC_中間財		
		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側	China	31.9	50.4	29.5
	Indonesia	0.6	6.9	2.7
	Malaysia	1.9	8.7	5.0
	Thailand	33.6	29.9	3.5
	Vietnam（2012）	30.2	1.2	1.0
	4カ国計	68.0	95.9	40.6
	5カ国計	98.2	97.1	41.6
	Japan	0.9	2.0	12.6
	U.S.A.	0.5	0.3	24.7
	Germany	0.3	0.6	21.0
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

表 18　ミャンマー・カンボジアの最終財の国別輸入構成比
（2013 年、%）

		BEC_最終財		
		輸入側		
		Cambodia	Myanmar	World
輸出側	China	25.9	53.2	42.2
	Indonesia	6.2	1.4	1.3
	Malaysia	2.1	1.8	1.8
	Thailand	41.9	26.3	3.3
	Vietnam（2012）	14.9	0.6	2.2
	4カ国計	76.0	82.7	48.6
	5カ国計	90.9	83.2	50.8
	Japan	3.2	14.1	9.3
	U.S.A.	4.8	1.3	17.3
	Germany	1.2	1.4	22.6
	8カ国計	100.0	100.0	100.0

ミャンマーとカンボジアは、2015 年から ACFTA/AFTA の関税率を引き下げる。これを契機に、徐々にモノカルチャー型の貿易構造から脱却し、多くの品目を取扱う多層的な貿易形態に移っていくことが期待される。

そして、現在のミャンマーにおける素材中心、カンボジアの最終財（繊維・履物）中心の輸出から、もう少し中間財のシェアを高めた貿易構造に転換するようになれば、ミャンマー・カンボジアの輸出入はさらなる持続的な成長を遂げるものと思われる。